

●「2009年度実績」のテキスト部分をクリックいただくと詳細ページにリンクいたします。

目標と実績

JSRグループでは、各カテゴリーにおいて長期的な推進項目と年度ごとの目標を設定しています。主要な活動目標と実績についてご報告します。

	推進項目	2009年度目標	2009年度実績	評価	2010年度以降の目標	推進部門		
CSRマネジメント	● CSRの方針策定と体制構築	● 4委員会活動の定着とCSR意識の浸透度向上	● CSRの長期目標実現を目指してCSR推進を本格化。既存の企業倫理、RCに加えて、リスク管理、社会貢献活動を本格始動 ● CSRレポートの刷新、「CSRレポートを読む会」の全部門での開催、社内報やイントラネットによるトップメッセージを含む発信増加により、社員のCSRへの理解の向上を促進。各種アンケートで効果確認済み	○ ◎	● リスク管理、社会貢献活動の定着と高度化 ● メッセージの発信増加 ● 社内での対話会などの意識浸透策の実施	● CSR部		
	● 国連グローバル・コンパクト(GC)	● GCネットワークのCSR活動への活用	● GC分科会等のネットワークを最大限活用し、施策に反映。社長が2010年2月の経営者懇話会に参加	◎	● グローバル・コンパクトのネットワークのCSR活動への活用	● CSR部		
	● コンプライアンスの強化	● 企業倫理意識調査の実施 ● 新倫理要綱と新ホットラインのPR強化 ● 法令遵守体制の確立	● グループ全体で意識調査を実施。結果をキャラバンで周知化するとともに抽出課題へのフォローアップ計画を作成 ● 2008年度に導入した多言語対応のホットラインの英語・中国語ポスターを制作し、海外拠点でのPRを強化 ● 外部講師による役員向けコンプライアンス・セミナー、管理職向けDVD研修を実施 ● 海外を含むグループ全体で、法令遵守状況の定期確認および改善活動を実施	○ ○ ○ ○	● 企業倫理意識調査の定期実施とフォローアップ ● 企業倫理意識調査の実施 ● 教育活動の継続 ● 法令ごとの重みづけ実施と制度の定着	● 企業倫理委員会		
	● リスク管理の強化	● 全社的リスク管理システムの始動 ● 緊急時対応能力の強化 ● 新型インフルエンザ対策	● 2008年度に構築したリスク管理システムの運用を開始。12項目の「全社重要リスク」を選定し経営として管理していく体制を始動 ● 大規模災害・事故の発生を想定した「リアルタイム型危機管理訓練」を実施したほか、安否確認システムを導入し、危機発生時の対応能力を強化 ● 2008年度に策定した「新型インフルエンザ対策」をブラッシュアップし、流行時に活用	○ ○ ◎	● 全社的リスク管理活動の定期的実施と制度の定着 ● 危機管理訓練の継続実施と改善 ● 対策を継続	● リスク管理委員会		
	● CSR調達*1	● CSR調達導入の検討(新規目標)	● CSR調達導入に向けた仕組みの検討を完了	◎	● CSR調達の運用開始	● 購買部門		
	RC(環境・安全・健康)マネジメント	● 環境・安全に配慮した製品の開発	● 環境配慮型製品の提供 ● LCA*2による環境負荷の把握	● 環境配慮型製品の見直しを行い取り組みを強化 ● 代表的な合成ゴムのLCI*3データについて、(社)産業環境管理協会のデータベースに登録済。フライン製品のデータについても算出を検討	○ ○	● 環境配慮型製品開発の推進とラインアップの拡充 ● LCIデータの環境負荷低減活動への活用検討を継続	● RC推進委員会	
● 化学物質管理の充実		● GHS*4への対応 ● 欧州REACH*6への対応 ● グリーン調達*7の推進	● 労働安全衛生法に従い国内出荷製品のラベル表示、MSDS*5のGHS化を計画通りに推進 ● 欧州のREACHに従い、予備登録を完了。本登録への準備を開始 ● JAMP*8 GP(グローバルポータルサイト)への参加と試行	○ ○ ○	● 輸出品について、各国の法規制に従いGHS化に適時対応 ● 本登録の実施。REACH規則への対応 ● サプライチェーンでの連携を重視した活動の推進			
● 製品品質の継続的向上		● PLP*9活動の展開	● 品質管理システムの見直しや品質リスクの検知技術の向上等、品質事故予防を強化	○	● グループ企業を含めた確実なPLP活動の継続			
● 製品に対する環境・安全情報の提供		● 顧客への環境・安全情報の提供	● MSDS電子管理システムにより試作品や製品について顧客に正確な内容のMSDSを確実に提供	○	● 顧客への環境・安全情報の確実な提供を継続			
● 事故・災害の撲滅		● 事前環境・安全評価の実施 ● 大規模地震対策の計画的推進	● 設備新增設・変更、非常作業等の実施に際しては安全・環境マニュアルに従い、事前環境・安全評価の実施を継続 2009年度は、四日市工場にて小火事故が発生。徹底的に原因究明を図り、再発防止対策を実施 ● 労働安全衛生災害防止のため、危険箇所・危険作業の撲滅活動等を継続。2009年度は、JSR社員の休業災害なし ● 耐震性能診断結果を基に、工場内の高圧ガス設備を中心に耐震工事を継続	△ ○ ○	● 現状の設備、物質、作業等について潜在危険の発掘とその対策を継続 ● 職場の危険箇所、危険作業撲滅とともに、技術の伝承を推進 ● 中期計画に沿って対策を推進			
● 社会から信頼される事業所づくり		● ISO14001、ISO9000シリーズの維持審査 ● 保安関係法令認定の維持・継続 ● グループ企業の環境・安全監査	● JSRの3工場(四日市・千葉・鹿島)ともISO14001、ISO9000シリーズの継続審査に合格 ● 保安関係法令に係わる認定(高圧ガス保安法、消防法、労働安全衛生法)についての維持継続 ● 国内グループ企業を対象に含めた環境・安全監査を継続。海外グループ企業は未実施	○ ○ △	● ISO14001、ISO9000シリーズの受審の継続 ● 保安関係法令に係わる認定の更新 ● 国内および海外グループ企業の環境安全監査を継続			
● 環境負荷の低減		● 省エネルギーの推進 エネルギー原単位を1998年度基準で年平均1%削減 ● VOC*10大気排出量削減 ● 排水環境負荷、産業廃棄物等の削減推進 ● 地域環境改善の実施	● 二酸化炭素の排出量絶対値削減目標「2012年度排出量を1990年度対比6%削減」の達成に向け対策検討。四日市工場に大型天然ガス焚きガスタービンコージェネレーション設備(新設コージェネ)を2010年4月に設置。 ● 2009年度の実績は生産量が減少したことにより、排出量は約8万トン減少。但しエネルギー原単位年平均1%削減は未達成 ● 二酸化炭素の排出量取引に関して、行政が実施している試行的実施を通じて、排出量取引に関する知識・情報の蓄積を継続中 ● 社員の家庭での省エネ活動を継続(日本化学工業協会:ABC活動 2008年4月~2010年3月)。「努力賞」を受賞 ● JSRの3工場に設置したRTO*11によりVOC排出量を2000年度基準約75%削減 ● 産業廃棄物に関しては、廃棄物の発生抑制、廃棄物分別の徹底、再資源化先の探索等に全工場一体となって取り組み、2003年度から2009年度まで継続してゴミゼロの目標を達成(最終埋立処分量6トン/年) ● 排水(COD、全窒素、全リン)についても環境負荷削減に努め、第6次総量規制に対応 ● JSRの3工場に設置したRTOによる臭気削減継続 ● 四日市工場に設置したランドフレア*12による騒音・遮光対策継続。2009年度は環境苦情なし	◎ △ ○ ○ ○ ◎	● 二酸化炭素排出量削減目標達成のため、省エネ活動を中心に継続 ● 新設コージェネの効果確認 ● 排出量取引に関する情報収集を継続 ● 環境省の「我が家の環境大臣一環境家計簿」に参加 ● 2012年度のVOC削減目標は「2000年度基準80%削減」 ● ゴミゼロの目標達成の継続 ● さらなる負荷低減の推進 ● 環境苦情ゼロの継続			
● 生物多様性への取り組み		● 生物多様性の情報入手(新規目標)	● 「企業と生物多様性イニシアティブ(JBIB)」に参加 ● 生物多様性への基本的な認識を経営陣で共有するため、外部専門家による「役員セミナー」開催	◎	● 生物多様性に関する方針策定			
人材		● ワークライフバランスの支援	● ワークライフマネジメントの考え方を普及・浸透(新規目標) ● 各種制度の充実	● 2010年度中期経営計画に明文化し、会社方針として明確化 ● 育児・介護・看護支援制度の法改正を上回る拡充、ボランティア休暇の利用実績計上	○ ◎	● ワークライフマネジメント意識の理解と浸透、浸透のための施策の推進 ● 社内(男性社員含む)での制度の認知の確認と、向上施策の実施		● 人材開発部門
		● 人材の多様化	● ダイバーシティ推進戦略の策定(新規目標) ● 採用の多様化、障がい者雇用の促進	● 2010年度中期経営計画に明文化し、会社方針として明確化 ● 採用プロセスの多様化実施、障がい者雇用は法定雇用率1.78%	◎ △	● 社内風土の醸成、具体的施策の実行、数値目標レベルの到達(2015年度管理職に占める女性社員5%、2011年度新規採用女性比率:技術系15~20%、事務系40~50%) ● 採用の多様化推進		
社会貢献		● 社会貢献活動の推進	● 社会貢献新プログラムの始動 ● 地域貢献活動の推進	● 次世代育成分野(理科の出前授業、学校の先生向け研修等)、社会福祉分野(TABLE FOR TWO、エコキャップ運動等)を中心に各種のプログラムを開始。JSRグループにとって「社会貢献元年」となった ● 各工場における地域住民との交流行事、周辺の清掃活動、工場見学会など地域の皆様との対話を重視した活動を実施	◎ ○	● さらなる新プログラムの検討および導入 ● 活動継続		● 社会貢献委員会

用語

- *1 CSR調達
環境対応のほか、企業倫理や雇用など社会面での取り組みも実践している調達先から原材料等を調達する取り組み
- *2 LCA
Life Cycle Assessment
製品について原料、製造、使用、廃棄の全工程で、環境に与えた影響を定量的に分析・評価する方法
- *3 LCI
Life Cycle Inventory
LCAにおいて、製品に関して、資源、エネルギー、環境負荷の入出力データを積算すること
- *4 GHS
Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals
化学品の分類および表示に関する世界調和システムで化学品の分類、ラベル表示、MSDS提供を世界的に統一する仕組み
- *5 MSDS
Material Safety Data Sheet
製品安全データシート
化学物質の安全情報を記載したシートで他の事業者に出荷する際に添付する
- *6 REACH
Registration, Evaluation, Authorisation and Restriction of Chemicals
欧州の化学品の登録、評価、認可および制限の規則で年間1トン以上製造・輸入する化学品は全て安全性試験データをつけて登録する制度
- *7 グリーン調達
人の健康に悪影響を及ぼす可能性がある物質の管理を徹底できている調達先から原材料等を調達する取り組み
- *8 JAMP
Joint Article Management Promotion-consortium
アーティクルマネジメント推進協議会。サプライチェーンの中で化学物質情報等の円滑な伝達を目的として設立された団体
- *9 PLP
Product Liability Prevention
製造物責任予防
欠陥製品を製造しないための予防活動
- *10 VOC
Volatile Organic Compounds
揮発性有機化合物のことで大気汚染の原因になる
- *11 RTO
Regenerative Thermal Oxidizer
VOCを燃焼させ水と二酸化炭素に分解する装置で、よりクリーンな排気を可能にする
- *12 ランドフレア
地上置き円筒状炉内で燃焼する形式の排ガス燃焼設備で、通常のフレアスタックより周辺環境への影響が少ない

◎: 計画以上に進展
○: 計画通り推進
△: さらなる努力が必要
そのほかの詳細情報についてはWeb版で報告しています。

